

福岡市環境審議会 議事要旨

- 1 日時 令和6年5月20日（月）15：00～16：30
- 2 場所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホールメインホール B
（オンライン併用）
- 3 出席者（五十音順、敬称略）

氏 名	役 職 等
阿部 真之助	市議会議員
大石 修二	市議会議員
大原 弥寿男	市議会議員
大森 一馬	市議会議員
押川 千恵	独立行政法人国立病院機構福岡病院 耳鼻咽喉科 科長
包清 博之	九州大学 名誉教授
菊水 之恵	日本野鳥の会 福岡支部 幹事
木村 てつあき	市議会議員
小出 秀雄	西南学院大学 学術研究所長
砂入 成章	九州経済産業局 資源エネルギー環境部 次長
勢一 智子	西南学院大学 法学部 教授
平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
高木 勝利	市議会議員
田中 綾子	福岡大学 工学部 教授
萩島 理	九州大学大学院 総合理工学研究院 教授
林 灯	九州大学 エネルギー研究教育機構 教授
久留 百合子	リエゾンオフィス 代表／消費生活アドバイザー
馬奈木 俊介	九州大学大学院 工学研究院 教授
山内 勝也	九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授
山田 ゆみこ	市議会議員

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 諮問（福岡市環境基本計画（第四次）の策定について）
- (3) 福岡市環境基本計画（第四次）等の策定等について
- (4) 福岡市環境基本計画（第四次）策定にあたってのポイント
- (5) 福岡市環境基本計画（第四次）素案策定作業部会の設置について
- (6) 閉会

5 議事要旨

(1) 開会

副市長あいさつ

(2) 諮問（福岡市環境基本計画（第四次）の策定について）

福岡市環境基本計画（第四次）の策定について、福岡市環境審議会へ諮問

(3) 福岡市環境基本計画（第四次）等の策定等について

【事務局】

資料1について説明

（委員より意見・質問等なし）

(4) 福岡市環境基本計画（第四次）策定にあたってのポイント

【事務局】

資料2について説明

【委員】

国の環境基本計画策定に係る審議会に携わった立場から、同計画の特徴を2点述べさせていただきます。1点目は生物多様性に関する記載が現計画と比較して増えている点である。環境省の政策の大きな方向性として、「ネイチャーポジティブ」単体で生物多様性を守ろうという旧来型の環境保全ではなく、「カーボンニュートラル」、「サーキュラーエコノミー」、「ネイチャーポジティブ」の3分野を統合的に推進し、同時に経済を回していこうとしており、経済や産業の要素を計画に盛り込んでいる。環境省、経済産業省、国土交通省、農林水産省が連名で「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」を出している点からも経済色が

感じられる。

2 点目が「ウェルビーイング」である。ウェルビーイングの視点から市民が環境問題を自分事として考え、一人ひとりが行動していく仕組みを作っていくことが重要である。市民が環境に配慮した商品を購入することで需要が増えると、企業側が環境に配慮した商品を提供しようとするきっかけとなる。それが ESG という環境への投資やファイナンスを含めた取組みの記載にも繋がっている。

また、国の環境基本計画では「自然資本」という言葉が多く入っており、福岡市もこの言葉を前面に出していくと良い。ESG への取組みを大事にすることで、経済界を巻き込みながら「カーボンニュートラル」、「サーキュラーエコノミー」、「ネイチャーポジティブ」の3分野の統合的推進にも繋げていき、市民へきちんと伝えていくことで需要を喚起するような取組みができれば良い。

【委員】

国の視点と整合を取ることは大事と考えるが、これまでに福岡市では何ができなかったのか、どのような点が課題なのか、都市によって文化も違うため、地域特性を踏まえながら検討していく必要がある。

【委員】

福岡市の場合は経済をどう回していくのかという視点も大事なので、環境審議会では環境に関わるビジネスについて積極的に議論してもいいのではないかと。これだけオフィスビルが出来て、人が集まり、人口も増えてきているが、これまで環境ビジネスについてあまり議論されていなかった。福岡市の特徴や視点としては大事な点と考える。

【委員】

事業所の省エネ対策等、環境保全や脱炭素につながるような取組みは多くある。しかし、経済産業省の報告や九州圏内の商工会議所等の中小企業アンケート結果等を確認すると、対応の必要性は分かっているが、何から始めたら良いか分からない、という事業所が多いようだ。この辺りは自治体としてできる事をしっかり考えていく必要がある。

【委員】

国の環境基本計画でも経済を強く意識したものになっているということであったが、国のトレンドに合わせて福岡市でも環境経済に取り組むというだけでは、中々形にならないと思う。福岡市の強みや弱み、特性をしっかりと分析した上で検討していかないと、計画だけが先行してしまう恐れがある。計画策定にあたってはその辺りの分析をしっかり行ってほしい。

【委員】

Fukuoka Green NEXT に関する取組みがあるが、業務の縦割り感を感じている。今回、10 年ぶりに環境基本計画をアップデートするということで、局横断的に「ネイチャーポジティブ」について検討していく必要がある。

【委員】

福岡市と言えば都市部だけを考えてしまいがちだが、市内にも色々な地域があるので、全ての地域に同じように取組みを行うのではなく、地域特性に応じた多様な施策を検討すべきではないか。西区なら西区、城南区なら城南区のように、区によって違いがあるので、地域に応じて施策の重み付けを変えるとか、地域の多様性も検討していく必要がある。

【委員】

福岡市基本計画素案の基本戦略について、まず「生活の質の向上と都市の成長の持続的な好循環」という表現がされているが、この中に産業の特徴をもう少し記載し、他の政令指定都市とは明らかに違う表現をしても良いと考える。次に「多様な人材が集う」という表現があるが、福岡市は現在も人口が増えつつあるが、やがて少子高齢化、人口減少に向かっていく。人材が足りない中で「多様な人材が育ち、チャレンジできる環境づくり」を進めるためには、間口の広い多様な支援組織づくりを通じた人材育成が必要であり、そのような具体的な施策を匂わせる文言があっても良い。次に「広域的役割」については、政令指定都市のモデル都市として、福岡市で二酸化炭素排出量が高い運輸産業や商業にどのように対応するのが注目されており、その辺りの強調があっても良い。

※ 第 10 次福岡市基本計画に関するものであるが、基本戦略で挙げられているものの論点を環境分野にどのように引き寄せ、環境基本計画に落とし込んでいくかという指摘として受け止める。(会長)

【委員】

福岡市基本計画の分野別目標について、大項目が抽象的になりがちで、小項目で具体的な内容に落とし込むということではあるが、環境問題が急速に悪化していることから、市民の行動変容を促せるように目標をより具体的なものにしていけると良い。

※ 第 10 次福岡市基本計画に関するものであるが、具体的なイメージが表せるような文面にする必要があるという指摘であり、その点に関しては環境審議会等でも議論していく必要がある。(会長)

【委員】

国の環境基本計画の方針や政策展開、計画体系など記載されているが、横文字が多すぎて、用語の理解に時間がかかる。国の環境基本計画を受けて、福岡市も計画を策定していくと思うが、計画を策定する際には市民に福岡市の取組みを十分理解してもらわないといけない。例えば、「カーボンニュートラル」や「サーキュラーエコノミー」、「ネイチャーポジティブ」の意味を知らない市民も多くおり、まずは市民にこれらの用語をしっかりと理解してもらわなければならない。

市民への啓発や環境教育は、議員や、環境審議会委員の仕事ではなく、行政の仕事であり、行政がしっかりと取り組んでいく必要がある。そうでなければ 2040 年までに先進的

都市にはなれない。

また、「ウェルビーイング」についても、言葉が先行しているが、大前提として、個人の感じ方は異なるということを共通認識として市民に意識づけていくことが必要である。この辺りも含め、工夫をしながら市民にしっかり伝えていくとともに、小学生や中学生への環境教育にも力を入れて取り組んでほしい。

【委員】

生物多様性の保全を具体的にどのように図ろうとしているのか、具体的な部分が見えない。福岡市域の3分の1は森林が占め、自然に恵まれているが、戦後30年から40年ほどで全国的にスギとヒノキの植林が行われ、現在は山林の7割がスギとヒノキの人工林となっている。それまでは雑木林で多様な生物が生息していたが、スギとヒノキの山林にはそのような生物がほとんど住んでいない。現在は山林を「切る」「植える」「育てる」「切る」というサイクルが止まっており、スギやヒノキから広葉樹や落葉樹に植え替えていくというサイクルを作っていかなければ、生物多様性を保全することはできない。

Fukuoka Green NEXTとして、市が間伐して山林を植え替えようとしているが、木材価格が低迷しており、木材を切っても採算が合わないという実態もあるため、木材をいかに都市部で利用するか検討することが重要である。また、広葉樹や落葉樹から流出する溪流水にはミネラル分等の栄養分が豊富にあり、それらが川や海に流れていくわけだが、現在は山林がスギやヒノキばかりとなっていることから溪流水の栄養分が少ない上に川の水量が減少しており、室見川のシロウオも少なくなっている。循環型社会の中で山林対策をいかに講じていくのか、今後検討していく必要がある。

【委員】

「カーボンニュートラル」のようなグローバルな環境問題に対して、市民一人ひとりや福岡市ができることを検討することも非常に重要であるが、同時に市の環境基本計画を検討するにあたり、市民一人ひとりの「生活環境」というものもしっかり考えていく必要がある。環境を人間や社会を取り巻く外的な事物の総体として広く捉えると、「生活環境」の豊かさがウェルビーイングに繋がり、この構造がグローバルな環境問題の解決にも繋がる。「生活環境」の豊かさが飛んでしまうと、市民一人ひとりが自分ごととして頑張ろうということも考えにくいと思うので、資料に「生活」という言葉が入っていないことが気になった。国の環境基本計画の重点戦略でも「地域」「くらし」という文言がある中で、市においても「生活」ということをしっかり検討していく必要がある。

【会長】

資料2に関しては以上となるが、環境を取り巻く状況は新たな局面を迎えており、福岡市環境基本計画の改定に当たっては、現状の課題を的確に捉えつつ、長期の環境変化にも対応し得る内容となるよう議論を深める必要がある。

また、資料2の2ページの1番下に記載がある効率的・効果的な計画行政の推進について、国が示す政策分野や政策項目ごとの法律を基に、福岡市においても個別の計画を策定していたが、環境分野については様々な分野と繋がってきており、個別分野ごとに計画を

策定し、それぞれの計画を運用するということは効率的ではなく、分野間の連携がしづらい。審議会等でフォローアップする場合も議論が途中で終了してしまうこともあり、より良い政策展開の支障にもなる。そのような問題意識もあり、現在は国でも効率的・効果的な計画行政を推進するために、関連する計画の統合について検討することを推奨している。そのため、本計画の改定にあたり、部門別計画等との統合が可能かどうかの視点も含め、検討を行うこととしたいと考えているが、異議はあるか。

(異議なし)

(5) 福岡市環境基本計画（第四次）素案策定作業部会の設置について

【事務局】

資料3について説明

【委員】

ワーキンググループを作ることに反対はしないが、ワーキンググループで議論する際に環境局以外の局にもオブザーバーのような立ち位置で入ってもらい、多様な分野の意見が聞ける場を設ける必要があると思う。

【会長】

作業部会には各専門部会の部会長に入ってもらっており、本日委員の皆さまの意見も確認させていただいているので、作業部会の進め方については作業部会に任せたいと思う。事務局も先ほどの委員の意見について対応をお願いしたい。また、作業部会の人選案について事務局より説明があったが、人選案は事務局案のとおりでよいか。

(異議なし)

(6) 閉 会

副市長あいさつ